

## ブレイクスルーの瞬間

中原さとる<sup>\*1</sup>  
Nakahara Satoru

## 1. 瞬間 その壺

子供のころからスキーに行く機会が何回かありました。ほとんどの人は、ホント?と思うかもしれませんが、初めてスキーに行った時に借りたスキーセットは、ストックが竹でした。今では、考えられないですね。

社会人になるまでは、年に1、2回、スキーに行く程度で、楽しんではいましたが、それほど、のめり込んだという訳でもありませんでした。

社会人になり、上司(指導員?)となった人がいる訳ですが、その人が、無類のスキー好きで、シーズンになると、ほぼ毎週スキーに行く人で、自然と?(今の時代なら“お断り”という選択もあるのでしょうが・・・)一緒に行くこととなり、かなりの日数(12月～5月GWまで平均すると隔週ペース)をスキー場で過ごしました。ちなみに、行くのはお気に入りのペンション(白馬・八方尾根)で、私自身もお得意様になりました。

これだけ行けば、うまくなるでしょう!!と思われるかもしれませんが、確かにどこでも滑れる程度にはうまくなつたのですが、スキー本来の面白味(人により、何を楽しみとを感じるか?は異なりますが)については、実をいうと全然、理解できていなかったようです。

数年を過ごした後、転職を機に、元上司とは毎週行くことはなくなり、逆に、転職先の仲間や、妻と行くことが増えました。

元上司と行っていた時は、ついていくのがやっ

とで、滑りについて考えることが無かったのですが、他の人たちと行くようになり、頑張っついていくという状況から解放?された瞬間、滑りについて振り返る余裕ができました。

この時に気が付いた(感じる事ができた?)のが、スキー板の反発力です。

我流ですので、「何、言ってるの～」的な批判は勘弁していただくとして、この時、初めて、スキー板のチカラを使って、“切り返し”をする感覚を得ることができました。

“切り返し”って何?という方もいるかと思いますが、詳しいことは、ネット検索してもらおうとして、スキーのCMとかでよく見ると思いますが、左右に弧を描きながら滑っているシーンを思い描いてください。1つの弧から次の弧に移る時に、左右のスキー板に乗せている体重を切り替えます。例えば、右回りの弧を描いている時は、左足側(要は、回転している外側の足で踏ん張っている感じ)に体重があるのですが、次の左回りの弧(ターン)に向けて、右足側に乗せ換えます。この動作のことを“切り返し”と言っており、この時にスキー板の反発力をうまく利用すると、簡単に“切り返し”ができます。

説明が長くなりましたが、この時がブレイクスルーした瞬間で、その後、得られたこの感触を活かし、一気にスキーの腕が上達しました(自分勝手に思っているだけです・・・)。

## 2. 瞬間 その壺

“その壺”での話は、新雪ではなくピステンとい

\*1: 取締役 制御システム事業部長

うブルドーザーの親戚?によって整備された雪面(圧雪)の話で、フカフカの新雪においては、違う感覚になります。

最近では、バックカントリー(通常は、整備されたゲレンデ以外の場所を言い、フカフカの新雪状態)で滑ることがトレンドとなり、スキー用具もバックカントリー専用の幅広のスキー板など、いろいろなモノが出てきています。

フカフカの雪の上を滑るテクニックは、圧雪の上を滑るのとは異なります。フカフカの雪の上を滑るには、雪の上に浮く感覚を覚える必要があります。当たり前といえば、当たり前なのですが、フカフカの雪ですので、止まっていればスキー板を付けていても、腰まで沈むとかは当たり前で、一定のスピードを出すことにより、雪の上に浮上する感じになります(経験はありませんし、受ける抵抗感は全く違うと思いますが、水上スキーのイメージがわかりやすいかもしれません)。雪の上に浮上する感覚は勇気をもってスピードを出せば、誰にでも経験できると思います(細かいことを言うと、圧雪上では板の前の方に体重を掛ける感じがよいのですが、新雪上では、板の前の方を上げて、新雪から浮力を得やすいようにします)。難しいのは弧を描く(ターンする)ことで、雪はフカフカですから、ストックも刺さらず、単純な体重移動のみでは簡単にはいきませんし、圧雪上でのスキー板の跳ね返りを利用したターンをそのまま応用することもできません。さらに、フカフカの雪の上ですから、弧を描いている(ターンしている)時も、均等ではありませんが、左右のスキー板に体重を掛けている状態になります。この状態で、スキー板の浮力を感じながら、体の上下運動を利

用して弧から弧へ切り返しを行っていきます。この感覚を得た時も、“目からうろこ”、かつ、“気持ち良い”瞬間で、まさにブレイクスルーした瞬間でした。

こうなると、新雪を滑るのが面白くなるのですが、安全に厳しい?日本のゲレンデでは、整備されていない新雪の上を滑れるところは、当時(今から20年以上前)ほとんどなく、自己責任でコース外を滑るぐらいしかなく、それをやって、監視員に見つかると、かなり厳しい指導を受けることになります(笑)。

大きくコースを外れると、生命の危険?にさらされることもあるので、朝一のコース脇にちょっとだけ残っている新雪部分を滑る程度しか、楽しむことができませんでした。

数回、それなりの新雪が楽しめたのは、午後に大型の寒波が来て、いきなり的大雪になり、リフトが止まる前に数十センチ程度、雪が積もった状態のゲレンデを滑ることができた時になります。雪がたくさん降っている訳ですから、視界も悪く顔に雪が当たって冷たく、ベストとは程遠い状態でしたが、そのような状態でも、新雪の上を滑るのは、別モノとして、とても楽しい瞬間でした。

### 3. それで?

とりとめのない話でしたが、何かをブレイクスルーする瞬間、その後の成長を感じ取れた瞬間、とても楽しい瞬間です。この楽しみ(喜び)は、自ら積極的に動くからこそ、得ることができるものだと思います。プライベートでも、仕事でも構いません。ブレイクスルーする瞬間を楽しみに、いろいろなことに対して積極的に取り組んでください。



取締役  
制御システム事業部長  
中原さとり  
TEL. 042-523-8311  
FAX. 042-523-8320